

原発対策委員会新聞

社民党福島県
連合原発対策
委員会・

発行責任者
小川右善

郡山をメイン会場に福島・いわきで開催

原発のない福島を！県民大集会

事故から三年・風化を許さない！

三・一一の震災と原発事故により、県民はかつてない困難な状況におかれ、いまなお十五万人が避難生活を強いられています。

二年八ヶ月を経過した今、地域住民の分断や離散、恒常的な低線量被ばくによる不安に加えて、避難の長期化、生活の再建や復興、避難区域の再編、中間貯蔵設置など、更なる困難な状況も生まれています。

その一方では風化がすすみ、風評被害や人権侵害、健康不安、原発の再稼働、輸出など、苦悩する県民を傷つける事象も生まれています。明年三月、事故から三年目を迎えるに当たり、県民の現状や課題を全国に訴え、

国や東京電力の一層の取り組み強化を求め、発信していく必要があります。以上趣旨、訴えに賛同する県内すべての県民、団体の意志を結集する場として「原発のない福島を！県民大集会」を開催します。

集会における私たちの訴えは、
一、福島県では原子力発電は将来にわたる自然エネルギー等を再生可能エネルギーの研究・開発拠点とすること。
二、原発事故に伴うすべての賠償、放射能によって奪われた福島県の安全・安心を国と東京電力の責任で実現すること。
三、福島県民の健康と生活の補償、自立

支援を実現すること。特に子どもたちを放射能から守ること。

政党・首長に協力要請

県連は、実行委員会と決めた任務、役割として、政党対策及び首長対策を行なっています。

十二月六日、自民党・民主党・公明党・共産党・維新など、小川代表・真鍋副幹事長、五十嵐平和フォーラム議長が、訪問し、後援、協力要請をおこないました。

十二月十七日、社民党いわき総支部、上壁・狩野市議会議員

ストテキストテキストテキストテキスト

の案内で、いわき市長を訪問した。

同日、いわき市に災害対策本部のある楢葉町を訪れ、楢葉町長に協力要請を行った。楢葉町町会議員、猪狩守氏が、紹介窓口となった。十二月十八日、大熊町長訪問。

いづれも社民党が窓口となり、五十嵐県フォーラム議長、児玉自治労委員長、小川代表が対応をした。二十六日、浪江

2014年3月8日(土) 11時30分
ユラックス熱海・いわき市文化センター・
福島県教育会館 主催「原発のない福島を！
県民大集会」実行委員会



十六日、政府交渉団体事務局との打ち合わせ会議を行った。会議には、事務局を担うヒバク反対キャンペーン、建部、振津、定森が来福し、現地視察もかねて、今後の運動の意図など、有意義な意見交換をした。特に、健康手帳の全国署名のとりこみについては、健康手帳をとりまく情勢の分析と署名開始判断時期を議論した。その他、子ども被災者支援法の今後の道筋や、全体運動の意見交換など、有意義な意見交換をした。政府交渉は、原子力情報室、双葉地方原発反対



いわき市 アクアマリン福島より

町訪問予定。脱原発・廃炉をすべての県民の意志として位置づけています。将来は、県が主催し、福島県の惨禍を全国に発信しながら、脱原発と被災者救済を訴え、国の責任を求め運動に収斂するとしています。与えられた任務に責任を持ち、集会成功に全力を挙げましょ

同盟など、八団体で構成し、ヒバク被害を中心に国の責任を求め、原発事故以降、八回の交渉を積み上げてきた。脱原発県民会議は、第六回交渉より参加している。フクシマをベースとした交渉展開、積極的に関わるべきである。